

令和5年度政務調査研究活動実績

議員名 土森 正一

高知の教育の充実

- ・ 教員の働き方改革について
働き方改革の状況と今後の取り組みの調査研究
教員個人に配慮した人事異動のあり方についての調査研究
教員の能力評価について
ハラスメントの抜本的な対策を図ることについて
- ・ 家族について
学校教育の中で家族の価値や意義を伝えて行くことについて
- ・ 高知の道德教育に充実に関することについての調査研究
- ・ 主権者教育について
若者世代の投票率向上に向けての調査研究
- ・ 探究心溢れる教育の充実に関することについて
- ・ デジタル教育について
実践的なデジタルの知識や技術を学ぶ場について調査
- ・ 地域みらい留学について
- ・ グローバル教育について
公立高等学校の海外留学の充実に向けた取り組みの調査研究
世界情勢を踏まえた教育の必要性について
- ・ 国旗・国歌について
学校教育の場で理解を深めて行くことについて
- ・ 高知の歴史、偉人を通した、郷土愛を育むふるさと教育充実の調査、研究。
- ・ 伝統・文化の継承に関することについて
- ・ 不登校の未然防止についての研究
- ・ 外国人人材について
日本語能力の向上を後押しする取り組みについての調査
日本語教育を必要とする児童生徒に対する学びの場の整備について調査研究

スポーツで高知を元気に

- ・アマチュアスポーツの合宿の誘致に関する事について
- ・プロスポーツの誘致に取り組む調査、研究
- ・スポーツを通じて、交流人口の拡大と地域の活性化、子どもたちの競技力を向上に
関することについて
- ・地域スポーツチームの支援につい調査・研究
- ・スポーツ施設の充実について

次世代の高知を創る

- ・県庁 DX の効果を県民が実感できる取り組みの調査研究。
- ・デジタル人材の積極活用と情報統括官（CIO）の調査研究
- ・市町村と連携した行政事務のデジタル化推進(RPA・AI・ICT)の調査研究
- ・リスキリング・レカレント教育などスキルアップ教育を充実する為の調査研究。
- ・自治体と民間活力で地域の課題解決に向けて連携、共同から共創に向けた取り組みの調査
研究

観光で高知を元気に

- ・関西・高知経済連携強化に関すること。
(万博・ワールドマスターズ関西・IR・関西アンテナショップ)
- ・幡多地域の6か市町村を軸とした自然型体験長期滞在型観光の調査・研究
- ・幡多地域の歴史・人・自然・食・文化を中心とした、体験型観光の充実に取り組み
サステイナブル(持続可能)ツーリズムの調査・研究
- ・インバウンド観光の調査、研究
(キャッシュレス・多言語対応・等)
- ・幡多地方の強みを活かしたスポーツツーリズムの調査・研究

女性と子育てお年寄りに優しいまちづくり

- ・子育て世代の子どもへの支援の充実に向けての調査、研究
- ・子育て世代に優しい社会環境の整備について調査・研究
- ・女性の活躍の場の拡大の調査、研究
- ・高知型地域共生社会の充実について

- ・医療・福祉・介護の人材育成、人材確保、処遇改善などについて調査・研究
- ・在宅育児手当などの支援制度の導入について

障がい者に優しいまちづくり

- ・聴覚障害者の現状と支援、手話言語条例制定に向けた、調査、研究
- ・障害者就労支援に関する事について調査研究
- ・農福連携に関する事について
- ・土福連携（建設）林福連携（林業）水福連携（水産）の調査・研究
- ・インクルーシブ教育の調査・研究

南海地震トラフ地震対策・台風・豪雨災害治水対策

- ・メガクライシス（巨大災害）の復興について
官と民が共創していく復興の取り組みについての調査研究
- ・災害廃棄物置き場に関する事について
- ・応急仮設住宅設置場所の確保に関する事について
- ・災害時の要支援者対策に関する調査、研究
- ・福祉避難所についての調査、研究
- ・避難施設での資材・機材の点検整備に関する事について
- ・流域治水、内水対策に関する調査研究
- ・線形降水帯における大雨災害についての調査・研究
- ・激甚化・頻発化する災害の対応について

インフラの充実と有効活用

- ・地方道と生活道の整備状況と進捗状況の調査に関する事について
- ・公共交通における土佐くろしお鉄道の在り方についての調査研究
- ・流域・治水対策に関する事について
- ・防災・減災対策に関する事について
- ・高速道路早期延伸、四国8の字ネットワークに関する調査研究
- ・国土強靱化の継続の取り組みの調査研究
- ・入札制度の関する事について

次世代の育成で新しい高知を創る

- ・市町村、県を越えた青年団、地域おこし協力隊の交流で次の世代を担う人材育成の調査、研究
- ・若い世代と、高校生の議員の座談会、意見交換会に参加することで、次世代育成の調査、研究。
- ・首都圏から若い世代の移住政策に関する調査・研究
- ・本県へのインターンシップの取り組みに関する事について
- ・伝統建築と技術学校に関する事について

住みやすいまち高知を創る

- ・物価高等対策に関する事について
- ・関西・高知経済連携強化に関する事。
- ・人口減少対策強化に関する事
- ・中山間地域再興ビジョンについて
ビジョン策定の調査研究
女性の割合が全市町村で全国平均を上回る目標について
地域の祭りを残し、活力を生む取り組みの調査研究
- ・未婚化についての調査研究
結婚願望がある未婚男女の結婚をサポートをする仕組みづくりについて
関係人口を増加させる仕組みづくりについて
高知出会いサポートセンターでのAI婚活、サテライト会場の充実について
結婚を望む未婚の男女の婚姻の増加に向けた取り組みの調査
- ・経営指導員のあり方についての調査研究
- ・ひきこもり対策に関する事について
- ・事業承継に関する事について調査・研究
- ・ヤングケアラー・ビジネスケアラーについての調査・研究

農林業漁業について

- ・物価高等対策に関する事について
- ・木材産業の振興に関する事
- ・中小製材業・県産材ブランド材の振興に関する事。
- ・自伐型林業の取り組みに関する事。
- ・みどりの食料プロジェクトについて調査・研究
- ・四万十産ぶしゅかん・栗など新しい特産品の研究を通じて中山間の農業の活性化の調査、研究
- ・四万十牛のブランド化、鮎ブランドなど産業振興に関する調査研究。

- ・四万十市における新食肉センターに関すること。
- 四万十市食肉センターの本県の産業振興への重要性についての調査研究
- 新四万十市食肉センターの整備についての調査研究
- ・西部家畜保健衛生所の整備について
- ・中山間の鳥獣被害対策に関すること
- ・定置網漁業に関する事について

新型コロナウイルス感染症 5 類以降後について

- ・コロナ禍で影響を受けた事業者の支援に関する調査、研究
- ・コロナ後の社会構造の変化に対応に関する事について

脱炭素・SDG s 自然環境の保全の取り組みについて

- ・2050 のカーボンニュートラルに向けて、高知県脱炭素社会推進アクションプランの取り組みについて調査・研究。
- ・高知県の特性を生かしたグリーン化関連産業の開発についての調査研究
- ・あゆ王国高知振興ビジョンの充実に向けて調査・研究
- ・四万十川の環境保全と生態系の再生について調査研究
- 環境改善に資するあらゆる取り組みの調査研究
- 四万十川再生の新組織設立に向けた現在の状況について
- アユ・テナガエビ・うなぎ等の漁獲量の再生についての調査研究
- アオノリ・アオサノリの再生についての調査研究
- 四万十川再生シンポジウムなどの開催に向けての調査研究。
- ・ブルーカーボンの取り組みについて調査研究
- 藻場の維持、拡大に向けた取り組みの調査研究

グローバル化の取り組みについて

- ・よさこい祭りにてベトナム・フランスチームを支援することで高知県・四万十市の交流の拡大を横に広げていく事の調査・研究
- ・高知県日韓友好議員連盟、全羅南道との議員交流を通じて発展的関係の調査、研究
- 高知県議会議員有志で韓国鉄原郡を訪問し、相互交流の調査、研究
(別添資料)
- ・高知県日中友好議員連盟を通じての交流拡大について
- ・高知県日台友好議員連盟を通じての交流拡大について
- ・ミクロネシアなど友好国との発展的交流の調査研究。
- ・グローバル戦略の中で、諸外国との発展的交流の調査研究。

「地域みらい留学」

平成 30 年から始まった地域みらい留学とは都道府県の枠を超えて、全国各地の公立高校への進学や国内単年留学を可能にした仕組みのことです。地域の学校に入学し、充実した高校生活を送ることができ、そこでしかできない体験と新しいチャレンジができることです。総務委員会県外調査で北海道の大空高校に視察に行きました。2022 年全校生徒 102 名のうち県外生が 30 名 29.5%の割合となっており、今まで 16 都道府県、出身中学校 50 校以上の実績があり、地元生と県外生が混在し多様性のある空間になっています。学生との意見交換もありとても充実した学校生活を送っているということでした。「親もとを離れて寂しくないですか?」「校長先生や地域の方が大切にしてくれて最初は少し寂しかったけど大丈夫です!」と元気にお話しされておりました。地域みらい留学の仕組みは子ども達にとっても、高知県にとってもとても魅力的な仕組みです。その子どもたちはその地域を故郷と想ってくるからです。高知県においても現在 6 校が地域みらい留学実施校となっております。関東地方 25 名を筆頭に 5 年間で 74 名の留学生を受け入れています。地域みらい留学生による刺激が学校や地域の活性化、生徒の学びの好循環となります。地域みらい留学制度をさらに充実させていきます。～中村高校西土佐分校も地域みらい留学実施校となりました。～

韓国全羅南道・江原特別自治道鉄原郡訪問団参加報告書

高知県議会議員 土森正一

2023年9月8～10日高知県の姉妹都市全羅南道での国際庭園博覧会の参加を軸にした高知県主催の韓国訪問を予定しているとの事で高知県議会日韓友好促進議員連盟にもご案内がありました。昨年全羅南道議員連盟の皆様と全国でも珍しい海外の地方議会連盟との交流協定を締結しており、さらなる親交・交流を目指し参加しました。また畠中拓馬県議の従兄弟の夫（香美市に移住した韓国青年）のお父さんが韓国鉄原郡の現職郡庁（日本では市長）ということもあり議員連盟有志で訪問し高知県と鉄原郡の共通の懸案事項である観光活性化、人口減少等の様々な課題に相互発展的な意見を共有することで新しい交流の機会が出来るよう調査した。

9月8日 ヒノキストリーム ハム社長との懇談会

仁川国際空港と到着後、全羅南道木浦市に向かい、ヒノキストーリー（ヒノキ関連会社）を営むハン社長と懇談会。ハン社長は高知県観光特使にも任命されており、高知県にも幾度となく来高、高知に惚れ込み高知県産のヒノキ関連商品を軸に多くの高知県産品を取り扱っている。木浦にて高知県の木材販路拡大、国際観光など議論いたしました。

【データ】

* 韓国は日本からの農林水産物・食品輸出額は501億円（2015年）国、地域別順位は5位となっており政府の韓国への輸出分析は、我が国と気候が近く、生産している農林水産物が競合するため、動植物検疫や関税のハードルが高く、輸出品目は加工食品などが多い。また、ヒノキが人気で、木材輸出が急増している。

9月9日 順天湾国際庭園博覧会「高知県の日」イベント参加

2023 順天湾国際庭園博覧会が10年振りに開催されており、この公園には両県道絆の象徴として高知県庭園が設置されております。本日開催される「高知県の日」のイベントがあり両県道の相互理解、友好交流をさらに深めるために副知事を団長とする訪問団と共に高知県議会日韓友好促進議員連盟の一員として参加した。2023年4月1日から10月31日まで開催されており整備費は200億円をかけているそうです。ユネスコ世界自然遺産順天湾を望む広大な公園に水の上の庭園、国家庭園、イギリス、イタリア、フランス庭園等各国の庭園がある、その一角に高知県庭園があります。国際博覧会開催にあたり、高知県造園協会が改修しており、高知の風景がそこにある素晴らしい庭園となっております。私

たちが来園した日も多くの来場者が歩いており、8月27日の時点で600万人が来場、その中で海外の来訪者は19万人となっており、まさしく国際庭園博覧会として成功をおさめておりました。「国家の日」の中で「高知の日」が開催され、高知県日韓議連幹事長大石県議、高知県日韓親善協会 西森名誉会長 寄本会長来賓紹介の後、井上副知事が祝辞を言われ、全羅南道副知事ミョン・チャンハン、組織委員会事務総長チョン・ジェヨンから歓迎の辞をいただきました後、高知の祭り屋よさこいチームがよさこい踊りを披露し、好評のうち終了し高知県のPRと交流を深めることができました。

順天湾国際庭園博覧会組織委員会主催 歓迎午餐会

組織委員会主催のもと全羅南道副知事はじめ組織委員会、高知県議会日韓議連、高知県日韓親善協会が集い、昼食をとりながら親睦を深めました。また、博覧会から午餐会開会場所に行く途中JCI（青年会議所）の国際大会のフラッグを見て、懐かしさを感じました。

全羅南道議会と高知県議会日韓議連の交流会

全羅南道議会議員一行が来高し、交流協定を交して以来の出会いとなりました。博覧会会場を観覧した後、1台のバスに乗り込み、高知や全羅南道の事など和気あいあいと次の視察場所に行くことができました。その後、仙岩寺を共に視察しました。2018年にユネスコ世界遺産に指定され、百済時代に建立されたと言われており、韓国らしい姿をしたお寺として知られているそうです。自然と調和した素晴らしい環境で、今でも修行場所となっているところです。またお寺の周りには野生のお茶が自生しており、お茶文化があります。日本では緑茶の分類になると思います。持続的なお寺として多くのかたが来ておりました。また通訳は、大学で日本語を学ぶ学生にいただき、韓国の文化、日本の文化のそれぞれの国のことを意見交換を致しました。愛知の大学に留学経験があり、日本で働きたいと夢を抱いておりました。夜の晩餐会では、高知県、全羅南道のこれから、また韓国と日本の友好に為には何が必要か、超党派で集まっている事で、様々な角度で議論、激論を交わし、最後は日本・韓国は隣同士の国、国と国も、そして全羅南道も高知県も海が繋がっている地域だ。これからも友情を深めていく事で、共に発展していこうと、共有いたしました。

9月10日

木浦共生園訪問・視察

高知県出身の田内千鶴子が約3千人の孤児を育て、「韓国孤児の母」と慕われた園を訪問してきました。まず共生園の歴史をPVで振り返り、その業績の凄さを思い知ることになりました。韓国のオモニ（お母さん）と呼ばれている田内千鶴子さんの生涯を描いた、石田えりさん主演「愛の黙示録」では、主演の石田えりさんはその後のバラエティ番組にはで

無くなったと言われております。その後、こども達が住んでいるお部屋も見させていただき、子供達とも少し交流いたしました。子供達の屈託のない笑顔は世界共通です。高知県出身の田内千鶴子さんが生涯をかけて孤児を育ててきたこのことを次の世代にもしっかり繋げていくことが大切だと感じました。

ヒノキストリーム社視察

木浦共生園の近くにあるハン社長の会社を訪問しました。入った瞬間にヒノキの香りが鼻に入ってとても気持ちの良い空間。ヒノキ関連の様々な商品が並んでいました。高知県産のヒノキを韓国で販売してくれていることに感謝し、高知県の木材販路の拡大をヒノキストリーム社と共に考えていきかなければならないと思います。私の住む四万十市は幡多ヒノキ、四万十ヒノキと言われる香りも色も良い桧が多くあります。世界全体を見ましても、素晴らしい桧の山が多くあるのは幡多地方だと言われております。また木の方も成長し、高幡に新しい製材会社もでき、出口戦略が必要です。日本政府も韓国のヒノキが人気で木材輸出が急増していることもあり、高知県も真ん中の戦略において欲しいと思っています。このことを執行部に提案していきます。

鉄原郡企画監査室長 クォン・ヨンギル 午餐会

高知県日韓議連有志で韓国江原特別自治道鉄原郡との新しい交流を構築する為ソウル駅にて鉄原郡監査室長と面会、午餐会にて高知県と鉄原郡について意見交換会。

アンジュングン（安重根）義士記念館視察

鉄原郡にいく前にソウルにある安重根義士記念館に行ってきました。安重根は1909年ロシアに向かう伊藤博文をハルビン駅頭で暗殺し、韓国では英雄と呼ばれています。翌10年、旅順で死刑判決を受けています。そういう認識しかありませんでしたが、安の裁判には、水野吉太郎弁護士、安岡静四郎検事ら多くの高知出身者関わったことを知りました。安は

処刑される同年 3 月 26 日までの 1 ヶ月間で 200 枚を超える書を残したとされていて高知にもいくつか持ち帰った方がおましてその書を記念館に寄贈している方もおります。平成 30 年には 2010～13 年に韓国の首相を務めた金さんは安重根崇慕会の理事長として高知と安の縁のある高知に来高しています。理事長室で丁寧にお話を聞き、多角的な視点で歴史を見ることもとても大切な事だと痛感した、記念館の視察でありました。

鉄原郡・江原特別自治道議会議員・高知県議会議員有志 歓迎晚餐会

ソウルから鉄原郡に車で移動する。2 時間半掛けての移動でした。その間ずっと高速道路が続いており、仁川国際空港ら南の全裸南道へ下り、北朝鮮と隣り合わせの鉄原郡に入ったことから南から北まで走ったことになりました。しっかりインフラ整備が進んでいることが分かりました。鉄原郡に到着し、晚餐会及び歓迎会を開催していただいた。鉄原郡守イ・ヒョンジョン、江原特別自治道議会議員キム・ジョンス（鉄原郡が選挙区）以下鉄原郡企画監査室長、自治行政課長企画監査室企画政策チーム長、鐵原郡側通訳、高知県側通訳 2 名が出席し、鉄原郡の状況、又江原特別自治道の状況、高知県の状況など話し合いました。鉄原郡守からは 4 万 2 千人の人口でピーク時の 6 万 5 人の時と比べて急減していて少子高齢化が進んで来ているとし、先に進んできた日本の人口減少対策、介護、福祉など学んで行きたいとお話され、私達の方からは高知県も人口減少、少子高齢化がすすみ県人口が 68 万を切るなど深刻な状態になっていると報告、会議保険や介護・福祉の取り組みなど報告した。又江原特別自治道の人口は 153 万人で道議会議員の定数は 49 人と報告され、高知県人口にその定数をあてはめると 22 人となり、国によってだいぶ違うという事が分かりました。少子高齢化、人口減少、など課題を共有しました。

9月11日鉄原郡庁訪問 歓迎式典 懇談会

鉄原郡守と朝食会后、鉄原郡庁郡守室にて懇談、その後、会議室に移動し、歓迎式典・懇談会が開催されました。鉄原郡からは郡主、副郡主、企画監査室庁（日本でいう3役）、観光政策室長、鉄原郡議会からは議長、副議長が出席、鉄原郡紹介のPV（今回の表敬訪問の為に作成してくれました。）を見た後、歓迎式典が行われ、また、懇談を致しました。郡の公務員数は674人、年間予算は600億円、郡の議員は7名で構成されているという事です。我が国とは違い地方行政に多くの権限があるということが分かりました。農業が盛んで鉄原五台米とよばれるブランド米生産で知られていると、お話がありました。又、軍事境界線を挟んで北朝鮮にも同名の行政区域があり、軍事境界線の28%が郡を通過しております。歴史と未来の故郷南北統一に備えているということです。国を分断されている今の現状の思いは、私達には到底考えられない気持ちが込められているように感じます。北朝鮮にも同じ名前の地区があるという事が現実が続いています。また農業を中心とした産業構成はとても高知県とも親和性があると感じており、先ほど申した人口減少、少子高齢化、など共有で切ることが多いと感じました。記念プレゼント交換では四万十市名物いかだ羊羹もしっかり入れさせていただきました。

鉄原郡議会視察

工程表には載っていませんが、本日より議会開会日という事で傍聴席より少しの間でした。が視察しました。7人の郡議会議員の名刺交換をさせていただきました。議長席に向かって左に郡守始め郡の3役、右には執行部、そして議長籍正面には7人の議員。韓国国歌斉唱から始まり、道歌 or 郡歌、そして朝鮮戦争で亡くなった皆様へ黙とうとおこない議会に入りました。その模様は国と地域の為に政事をおこないますという、その崇高なオープニングに国の強さを感じました。いつも議会開会には行っているそうです。とても思いでに残る時間でした。

DMZ 安保視察 平和展望台・第2地下トンネル視察

DMZ 平和展望台に行ってきました。そこに近づくとつれて戦車が隠れていたり、相手戦車を止めるコンクリートの塊が何個もおいていたり、道の両側には延々と柵があり、その柵は何かと聞くとまだ道の向こうには地雷が多く埋められているとの事、今でも時々、動物が踏んで爆発が起こっているそうです。平和展望台からは朝鮮戦争最大の激戦地、白馬高地が見えておりました。14日間12回をわたる争奪戦を繰り広げ、頂上の主が7回も入れ替わるほどの戦いで北朝鮮側3万人韓国側1.5万人が戦死したと言われております。又、韓国軍、北朝鮮軍の兵士が確認でき、休戦中だと言われていますが、緊張感が一杯です。しかしながら4kmの範囲にわたる軍事境界線は多くの野生の植物、動物が住む楽園と

なっているそうです。次に北朝鮮が韓国を奇襲するために掘った地下トンネルが韓国側で4本確認されているうちのひとつ第2トンネルに視察に行きました。地上から100m下に掘られています。1975年に発見されたそのトンネルは北朝鮮の執念を感じます。先ほども申しましたが戦争はまだ終わっていません。その現実が隣の国あることをあらためて認識しました。

サムトーンワサビ視察

昼食も兼ねてサムトーンわさび養殖場を視察しました。1997年に100の種苗から始めたわさび養殖ですが、水温17度で安定365日、今では独自のわさび養殖技術で栽培し韓国全土で販売しているという事です。日本にも以前は輸出していたが韓国の需要が増えてきて今は国内のみになっています。鉄原郡ワサビ組合は、20の生産者が集まり、年に2、3回あつまり技術、販売の拡大を勉強している。7年前よりマスとワサビを中心としたレストランも経営し、ワサビ体験も実施中である。お昼に頂いたマスの刺身とマスのお鍋は美味である。当然であるがワサビはとても美味しく、養殖栽培も見させていただいた。高知のトマトのIOPクラウドをほうふつとさせる次世代管理型農業をワサビ栽培にて行っている。光の加減をスマホですべて管理しており、数量の増減がなく、自然環境による増減は皆無となっているが、なんと勉強先は日本国長野県安曇野だそうだ。道議会議員も同行してまで来た視察先、鉄原郡の新しい産業群として、売り出していく思いが詰まった視察先となった。四万十市も新潟の技術を使って実証実験をしているが、韓国鉄原郡サムトーンわさびに教えていただくことが多くありそうである。

鉄原郡歴史文化公園視察

鉄原郡歴史文化公園は2022年挑戦戦争休戦69周年の7月27日に開園しています。日本の植民地時代の旧市街を再現した公園となっていました。そこには学校や銀行、郵便局、消防署、病院、映画館、旅館、洋服店などを模した建物が並び、日本から郵送された葉

書なども展示されていました。また分断され復興しない鉄道の代わりに、北朝鮮側の山が望める所伊山に向かうモノレールも同時に開業している。頂上に登ってみると米軍の部隊が駐在していた建物も多く残っており、北朝鮮側を監視するのは絶好の土地だったことが分かります。そこから見える景色は広大な耕作地帯が広がっており、とても豊かな土地だという事が分かります。鉄原郡は一時期北朝鮮側に入ったことがありその時に建てられた「旧朝鮮労働党鉄原庁舎」も残っており住民統制や思想教育が行われたところである。その庁舎は公園の目の前にある。鉄原は安保観光の盛んな地域ですが、そういう意味においては安保観光の新しい観光施設ともなりますが、一方で日本の植民地支配の美化に繋がるという意見もあると思いますが、背景にあるものは、日本に支配された地域もあり、分断国家の中で北朝鮮にも入ったことのある事実もある。その歴史の事実を後世に伝えていくかなければならない。そのための大切な公園なんだなと思いました。まさしく鉄原歴史文化公園。名前の通りだと思います。高知県、四万十市も見習うべきがものがたくさんあると思いました。

鉄原漢灘江、天の川（銀河）・柱状節理道(栈道) 視察

ユネスコ世界地質公園として登録された漢灘江流域は 1 億年間自然が作り出した彫刻のぼしよです。全長 180m幅 3 メートルのつり橋天の川橋（銀河橋）とても自然の調和に配慮したつり橋でした。又、柱状節理道(栈道) は総延長 3.6 km、幅 1.5mで漢灘江の代表的な柱状節理道溪谷と多彩な岩で一杯のスندان溪谷の絶壁に沿って、絶壁と虚空の間を歩く栈道でスリルと美しい風景を同時に体験できる素晴らしい所でした。鉄原郡民が漢灘江をいかに誇りに思っているかわかる場所です。高知県にも四万十川を代表とする清流が数多くあります。玄武岩や花崗岩、多彩な岩で繰り広げる溪谷の観光は高知でも展開できそうな思いもしました。鉄原の観光施設は比較的新しく観光産業で経済の活性化を目指しているという意図があります。とても勉強になりました。

鉄原郡議会主催晚餐会

私達が宿泊しているハンタンリバースパホテルの近くの故郷ガーデンにて鉄原郡議会主催で晚餐会を開催していただきました。鉄原郡

議会議長、副議長、企画監査室長、企画監査室主務官、議会事務局長、議会事務局議政チーム長、議会事務課の 4 人の皆様と意見交換を行いました。その中では年間予算が高知県の市町村と比べても規模が大きい事の議論や、議員の少なさ、又幼稚園が韓国で 30%も閉園し、子どもの数が急減している事、観光施策は見るだけでなく体験する観光を目指している事、また議員条例は 10 本は出している事など、そして議員それぞれに議員予算が配分され執行している事などそれには大きな責任があるので間違った事は出来ないという事。地方自治改革を常に念頭において活動している事、こちらからは高知県の方では農業振興センターや工業振興センター、産業振興計画など官と民で振興を行っている事、地域で見守る地域共生社会、ふるさと集落センター、あったかふれあいセンターなどを紹介し、こ

れからの高知県との連携のあり方を議論しました。

9月12日 鉄原守主催の朝食会（茶談会）

郡守以下企画監査室長と、企画監査室 企画政策チーム長の皆様と会食をし、今回の訪問の振り返りを致しました。鉄原郡企画調査室長から、高知県議会有志の皆様への訪問は大変有意義なものとなった。今後も連携し、様々な課題をそして今後の施策を共有していきたいそして鉄原郡と高知県の地域発展の為に繋げていきたいとお話を頂きました。私たちからは、鉄原郡のみなさまのおもてなしに感謝し、地方自治のあり方、国家分断の歴史、そして休戦という戦争状態にある事や、その中でも必ず国家統一をする準備をしている事、その最前線は鉄原郡から始まると確信している事など、私達には分からなかった部分を教えていただいた。と思っている。今後とも少子高齢化、人口減少対策、観光振興など相互理解の元、発展、連携していきたい。又、農業、工業の技術連携などはすぐにでもできることではないかとお話ししました。また高知県には鉄原郡ととても近い地域がある、香南市などを紹介し、鉄原郡と連携していく方向もあるのではないかと、これからは連携していきたいとお話ししました。

視察を終えて

韓国は強くて豊かな国。久しぶりの韓国はそう感じました。民間でお仕事をしている時に何度か訪問。ソウルは大都会で少し地方の方へ行くとどこことなく日本の地方に似た風景が広がる。そういった感じを持っていました。仁川国際空港から全羅南道木浦・順天への移動はずっと高速道路で行くことができ、またついた街もとても綺麗で、住んでいる韓国民も元気で街に力強さを感じました。

視察第1弾目は高知県と友好締結をしている、全羅南道での視察調査でした。「韓国のオモニ」高知県出身の木浦共生園で3000人の韓国孤児を育てた田内千鶴子さんのご縁でできた、全羅南道との友好はとても深く、進化していると感じました。議会の方でも高知県議会と全羅南道道議会が昨年交流協定をむずび、その友情は永遠に進化していくと思います。高知県と高知県議会両輪で全羅南道との交流を深化していくことが、高知県と全羅南道の発展に資するもの視察を終えて確信したところであります。

視察第2弾は畠中県議の従兄弟である、イ・スチョルが香南市に移住され、イさんのお父さんが鉄原郡郡守ということもあり、そのご縁で訪問いたしました。北朝鮮との隣接しお互いの行政自治区の名前が北朝鮮にもあり、軍事境界線の28%が鉄原郡ということで休戦中とは申しますが、戦争中であるという現実があり、とても緊張感のある地域です。しかしながら、産業は農業など1次産業を中心とした地域です。そして観光は漢灘江という見る、体験するという観光が中心で、そして大きな川が悠久と流れる風景はまさし、1次産業が中心で四万十川をはじめとする悠久に流れる清流があり観光の見る、体験する高知県と似通っております。その一方で課題では、鉄原郡はピーク時の人口から36%に急減し、特に若年層の減少が近々の対策で、そして高齢者の介護福祉に対する課題もあり、高知県と共有することが数多くあります。また、ワサビ産業の振興などは、四万十市でのワサビの実証実験をしている地域もあり、また、農業では高知県農業技術センター、工業技術センター等、技術的な情報交換が可能性を秘めております。また、鉄原歴史文化公園は日本の植民地時代の鉄原駅の市街地を再現した公園で、その横には「旧朝鮮労働党鉄原庁舎」も残っており、歴史にある事実を、次世代に伝えていくというその気持ちには心を打たれました。また国に拠って地方自治体の構造が大きく変わることも大変勉強になりました。鉄原郡との相互発展的交流はまず人口形態を同規模である香南市との交流を目指し、高知県は側面支援というような関係を作り、進化していくことが出来るようになればと思います。早速来春には鉄原郡と香南市が交流をするということを聞いております。四万十

市の方でもワサビ栽培、観光など関連することが少なくないと感じています。引き続き研究、調査していきます。

能登半島地震視察・災害ボランティア報告

令和6年3月26日～29日

なぜ能登半島地震災害視察・災害ボランティアに行く事にしたのか

- ・能登半島は幡多地方によく似ている。(どちらも半島振興法に指定)
- ・災害後の復旧にむけたベースキャンプの重要性
- ・液状化現象が起こっている地域がある。四万十市も、、、。
- ・その他現地で気付いたことを教訓にしたい。

1日は移動(往復) 1日視察(能登半島) 2日災害ボランティア(内灘町)

の工程表で行った。

奥能登ベースキャンプと日本航空石川高校のベースキャンプ視察

- ・奥能登ベースキャンプ

(ボランティア活動のためのベースキャンプ)

奥能登地域にスムーズにボランティア活動に入れるように穴水町に県が設置。

被災地の珠州市、輪島市等奥能登の被災地に1時間弱で行くことが可能とな

り、作業時間がこれまでの倍となる。最大100人の受け入れが可能。全国から

のボランティアの受け入れは25日より本格的に稼働している。

- ・日本航空高校石川ベースキャンプ

(行政支援の皆さまのベースキャンプ)

奥能登地域にスムーズに行政支援に入れるように、設置されたベースキャンプ。日本航空高校石川の寮施設1棟を丸ごと借りている。学校のスタッフもバックアップしている。高知県、四万十市の職員の皆様も、ここに入り活動をしている。

ベースキャンプを視察して

- ・ 金沢市とベースキャンプを設置した穴水町は、車で2時間強である。高知県を振り返ってみると、高知市と四万十市が車でちょうど2時間強となり、災害が起こった場合、幡多地方のベースキャンプは四万十市を中心としたものになるのではと思います。

その理由

- ・ 四万十市から幡多全体に1時間前後で行ける。

- 能登地方はマンパワーが不足しており、復旧に時間が掛かっている。そのようなことから幡多地方もベースキャンプ設置の可能性がある。
- 受援計画の中に、ベースキャンプの重要性を検討していくが必要ではないかと認識した。

思った事

- ベースキャンプの設置はとても重要。しかしながら視察して有効に活用しているとは思えなかった。まだまだこれからという感じがした。また自治体に支援策が偏っていると感じた。民間と連携して支援をすることを考えないといけないと思った。
- もう一つ懸念があります。今回の地震は金沢市が被害を受けていない事。南海トラフ地震が来たら高知市も金沢市のように被害が少ないというのは考えにくい。ベースキャンプに送る拠点をどこにするか考えないといけない。山村先生が地震にはそれぞれ顔がある。フェーズに合わせた対応が求められると言われた通り、どこを拠点にしていくかシュミレーションが必要だと思った。

能登半島被災地視察

能登に行く前に、四万十市の防災士、吉村さんと打ち合わせをし、視察に行くならここへ行くのが良いと方がいいと教えていただいた。吉村さんは私が入る2週間前に石川県にボランティアに入っていた。

- ・ 珠洲市宝立町珠洲特別支援学校周辺
- ・ 航空自衛隊輪島駐屯基地
- ・ 輪島市海に向かってルートインホテルから右側（隆起がひどい）

教えていただいたところを中心に視察

珠洲市

ベースキャンプの視察の後、珠洲市に入り宝立町周辺に出向きました。道は通れるようになっているが、瓦礫が道の周囲に盛り上がるように置かれている。道の方もマンホールが飛び出ているところもあるなど、復旧には、時間を要するなど感じました。そのような中、珠洲市役所の方が人が被災した家に入り、どうですかと一軒一軒お声をかけていた。松江市（島根県）の職員さんが応援に入っていました。お話もさせていただきました。「高知からですか、まさかこのようなことになるなんて、前を向いて頑張っていきます。」と言っておりました。また福岡県警からの応援の警察官がパトカーを降りて巡回しておりました。高知県警の車も見えていて、全国から治安維持の為に応援に入っています。

す。復旧の為の一般ボランティアも足りていませんが、その前に、解体業者など専門業者の必要性を感じました。

輪島市

輪島市に近づくと、崖崩れや集落の崩壊など大きな被害が見られるようになりました。道路の方もいまだに上に下にと歪み、地震の爪痕がそのまま残っています。かろうじて応急措置をして道が通れるようになっておりました朝市のあった場所の近くに駐車場がありそこから市役所方へ歩きながら視察をして行きました。その光景はかろうじて最低の応急措置をして、住む地域の営みがすこしずつ戻ってきているような感じでした。しかしその多くは発災後のままの光景が広がっておりました。また、輪島市半分が隆起しているのでは思うほど地形が変わっていると感じました。完全に復興する日はまだ遠い先のように感じました。

輪島市の方のお話

酒屋を営む方のお話

- ・雪のない正月だった。1月1日地震発生、立ってられない。余震も酷く片付けることが出来ない状況だった。

- ・ 2007 年の能登半島地震の時はお店の被害額は 600 万～800 万
- ・ 今回の地震はお酒の展示台に落ちて割れないように改修していたことで
お店の被害額は半分で済んだ。
- ・ 今回の地震の 7 はひどい。液状化も発生し周りがぬかるんだ。
- ・ 内閣府が聞き取り調査に訪れた。

1 月 1 日から解体が進んでいない。復旧の作業、土日が休みだ。

土日も作業してほしいと要望。道が倒壊家屋などで潰れている。早く撤去してほしい。ボランティアも増えない。馳知事が来ないでと言った事が影響している。

酒屋を営む奥様のお話

2007 年能登地震の経験を踏まえ、発災後すぐに家を飛び出した。おかげでサンダル履きだったが、怪我をしなくて済んだ。初動の 1 分間被災者がどう行動したかがとても大切。

- ・ 避難所の様子。

時間が経ってから、続々と避難所に来た。古い家屋が多く、助け出された人が夕方になってから増えてきた。怪我人、高齢者が多かったが、救急箱が各階に

1、2個しかない。とても間に合わなかった。必要な物は必要最低限備蓄していかなければならない。痛み止め薬がなく、「痛い。痛い」と多くの声が聞こえてきた。発災後は、お医者さんが1人だけだった。お薬はない状況だった。夫が市外に避難していた、知り合いの近くの薬局屋さんに掛け合い、使えるものは使って下さいと許可をいただき、急をしのいだ。2日目にDMATが来てくれて対応してくれた。

- ・食料・水の状況

水は2Lのペットボトル1本が配られた。2日目には在庫がなく、半分も行き届かなかった。食料は2日間何も無かった。気持ちが張っているのでお腹が空かなかった。

- ・その他

赤ちゃん、子供もいる、そしてお年寄りが多い、その家族が大変（トイレ、福祉トイレ等が必要）ペット同伴避難所も必要（輪島では一部屋用意していた。

1箇所だけだったがとても良いことと思った。

私は看護師ではないが、包帯や怪我の手当てをするなど、怪我人のお世話をさせていただいた。

- ・避難所の疑問。

避難所にいた70代男性 コロナになり、2時間30分かけて妹の家がある小松市に療養のために6日間滞在。回復した為、避難所に帰ってきたが、入れてもらえなかった事があった。静岡の親戚のところに一時行かれた方も戻ってきても入れなかった。親戚のところも事情があるので、ずっと入れなくなる。そのような事がならないようお願いしたいとのことでした。高知の方でも確認してみなければと思った。

・近所同士、声をかけながら避難所まで来た、ただ、家屋が潰れ助けて、助けての声が聞こえたきたが助けられなかった。今でもその声は聞こえてくる被災者がいたという事をお話してくれました。

問屋さんのお話

急傾斜危険地域に住んでいる。四十軒ほどの集落、発災後孤立した。重機（ユンボ）が1台あり、地区の人が啓開してくれた。水源地は5～6分の所にあるが、今でも断水中（3月27日現在）生活用水がないという事は、大変不便、水源地は復旧しないかもしれない（新しい水源地の確保）今年も田んぼにも水が来ないので、お米は作れないし、田んぼも畑も地割れがあり、復旧しないといけない。来年はできるようになればと言っていました。避難所から仕事に行っ

ていたが、3月いっぱいまで出て行かなくてはならない。理由は学校が始まるから。被災したお家に帰るそうです。子供達のためには仕方がない。

ここまでのまとめ

能登の人のお話を聞いていますと地震が起こった事は仕方ない、しかし、いい事もあった、地域の繋がり、絆がより深くなった。と言っておりました。なった以上は頑張っていくとお話をしてくれ、こんな災害を受けていい事もあった振り返るその強い気持ちに私自身が被災した時、そのような気持ちになれるのが、ほんとにすごい事だと思いました。また、自分のことではなく、漁業関係者が壊滅状態になっているのを本当に心配しておりました。能登は漁業が産業の中心という事が分かりました。復旧がままならない中、全国から支援が届いている。本当にありがたい。ベースキャンプができた時も「これでやっと輪島も直る、本当にありがたい」と自身の家は全壊した市民の人が話しておりました。能登の人は我慢強いなと思いました。

金沢市までの帰り道

帰りはのと里山道路（高規格道路）は被災して一部通行になっていて、国道249号線を使って金沢へ向かう、そういうな中で鹿磯漁港へ立ち寄った。港の中が隆起しており港が使用不能となっていた。隣の小さい港はもはや海水がなかった。国道を走っていくと海岸線が100m以上沖合に出ており、隆起していた。もはや陸ができていた。地震の凄さを感じました。

石川県内灘町災害ボランティア活動

石川県災害ボランティアに登録し、石川県を通じてボランティア活動（通称県ボラ）に行こうとしていたが、県の申請方法では、高知県から行こうとすれば、予定工程に繋げる事が難しかった。（遠隔地である等）

ここで、またまた吉村さんに相談、「あるよ、受け付けてくれる所」「是非お願いします。」「電話してみる」「とり君予約できたよ、内灘町」「ありがとうございます」行きたいと思っていた内灘町に行けることになった。その理由は、

- ・内灘町の被害は液状化が深刻
- ・四万十市はいざという時、液状化になると言われている。

これで石川県の工程表が完成した瞬間でした。精一杯見てきて、復旧のためのお手伝いを、その知見を高知に活かすと心に決めました。

内灘町の状況

内灘町は人口の河北潟という湖のような潟があり、その周辺を埋め立て住宅地となっていて、液状化の災害がひどい状況となっている。町が歪んでいるような状況であった。家財搬出に行ったお家も外からはわからないが、中に入ってみると、方向感覚がわからなくなるくらいだった。「長年住んできて愛着のあるお家なのにもう住めないんです。」住人の方が肩を落としてお話してくれました。このようなお家が何軒もあると思うと、私も肩を落とした。また電柱なども液状化で沈み外灯が手に届くところまで沈んでいた。

内灘町災害ボランティアセンターの他の地域では見られない特徴

- ・内灘町は石川県災害ボランティアセンターを活用しながら、町でも全国からのボランティアを独自に募集している。

- ・センターのリーダーであるが、一般ボランティアから選ばれた地域の人
がリーダーとなっている。地域の民間力を有効活用

理由（私の経験の私見）

- ・奥能登地方に目が向く中、報道も少なく、ボランティアが集まりにく
かった。
- ・県の申請から来てくれるボランティアのドタキャンが多く発生して
いた。（9人来てくれるはずなのに4人しか来なかった時もあった。）

独自のボランティア募集を始める。

（県外（全国）でも OK、電話でも OK、当日でも OK、延長も OK）

町にとって有益なことが起こる

- ・町に直接申請してくれるボランティアはまずキャンセルがない。（行く
意思が高いから）
- ・ボランティアスキルの高い人たちが集まってきた。県ボラでは、受け
入れが決まったらメールを送ります。では行くことができない人がいる

その他の特徴

- ・運営センターのスタッフはほとんど女性である。
- ・一般ボランティア（民間）が主になって運営している。
- ・とても段取りがいい

今日行くお家はこれくらいの量が有るので

お昼までに終わるとか、少し多かったとか

把握している。（地域の繋がり）

- ・私が入ったチームは、現場に行くボランティアに地元の人が1人（現場リーダーになる。）あとは全て違う県からのボランティアであった。（9名～10名）前述したが私以外はスキルの高い人たちなのですぐにワンチームになっている。
- ・私も2日間で8か所の家財搬出に行く事ができた。時間の無駄は全くない。

全国から来たボランティアを有効活用している。1日一桁のボランティアの数
だった時もある時もあったそう。その経験を踏まえての現在のセンターの状
況となっている。

センターにこんなことが書かれておりました。

「ボラセンお手伝いありがとうございます。研修とはひと味違うボラセン運営
です。内灘社協ボラセンの活動内容をご理解くださいませ。

自治体だけでは民間力の活用が大切。

ボランティア活動での出会い

2日目のボランティア活動に小学校1年生の女の子が、お母さんと参加して
いました。

「1年生えらいねえ、おんちゃんも頑張ってくるけん」

1クルー目が終わり、帰って行くと、ボランティアのネームシールをずっと切
っておりました。

ほんとにすごい事です。「今日は最後までお手伝い？」コクッと頷きました。

作業が終わり、帰ってくると、ネームシールが出来上がっていました。思わず
グータッチ。「頑張ったね。」「お母さん僕は今から高知に帰ります。最後に写
真とっていただけますか」とお願いしたところ、私も一緒に入ると言ってく
れ、記念撮影してくれました。びっくりしました。と同時にこの女の子は、内
灘町を愛する大人になると間違いなく思いました。

また一緒に作業した皆さんから拍手もいただき

「土森さんありがとう」と握手を交わしてくれました。

編集後記

石川県での経験を、高知に持って帰りメガクライシス（巨大災害）

にしっかり備えてまいります。ありがとうございました。

高知県議会議員

土森 正一